

2 (4) 実践事例 (C校第5学年)

単元全11時間の指導の実際は、こちらから⇒ [click](#)

視点を設定し、グループ学習と全体での学習において意見の質を高める実践【課題解決の場面】

(第8時／全11時間)

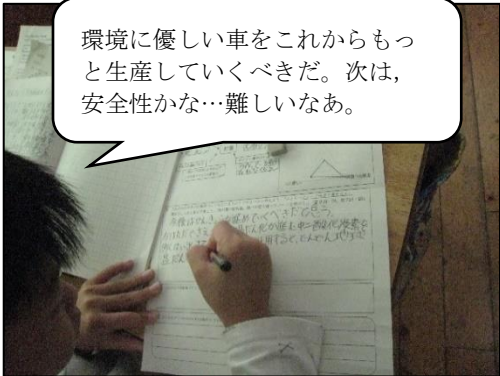
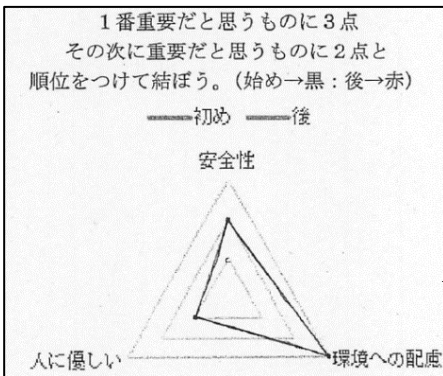
本時の目標

これからの日本の自動車づくりはどのように進めていくべきか自分の考えを持ち、記述することができるようにする。

【社会的な思考・判断・表現】

本時の授業の様子

※写真資料は、著作権及び肖像権に配慮し、処理しています。

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)、質的改善を図った手立て ([])
1 本時のめあてをつかむ。 	○交通事故や環境問題、世界の流れなど社会的な側面を踏まえた限定した資料を見せ、これからどう進めていくべきかを考えるように促した。 ○児童の反応に対して「そうだね」「なるほど」と認めることで、学習への意欲を高めるようにした。 
めあて これからの日本の自動車づくりはどのようにすすめていくべきか考えをもとう。	
2 自分の考えを観点別のグラフに順位を付けて表し、理由を書く。〈個人〉 	○持続可能かどうか、実現可能かどうか、視点に沿って考えることを伝えた。 ○見通しを持って、学習に取り組むことができるように、次時でレポートを書くための中心となる考えを最後にまとめることを確認した。 ○考えの変化を可視化するために、「環境への配慮」「安全性」「人への配慮」の3つの観点に順位を付ける時間を取った。  「環境」「安全」「人」の観点に、順位を付けさせるレーダーチャート(思考ツール) ○なぜそう考えるのか、根拠を資料の中から示すよう声掛けをした。[D③] ○思考の変容を実感することができるように、レーダーチャート(思考ツール)を活用させ、考えが付け加わったり、変わった

3 グループで意見交換をし、考えを深める。



4 学級全体でこれからの自動車づくりのすすめ方を話し合う。〈学級全体〉



5 今後のレポートの材料となるよう、ワークシートに考えをまとめる。

〈個人〉



た場合は赤色で記入するように指示をした。

○意見交換を通して考えを深めることができるように、レーダーチャート（思考ツール）を見せながら話し合うように伝えた。〔D⑤〕

○話し合いの目的を意識することができるように、考えを広げるために話し合いをすることを確認した。〔D④〕

○同じ考えでも根拠として使った資料が異なる場所など、違いを見付け考えを深めさせるようにした。〔D⑤〕

○資料から読み取った情報を基に考えるように、考えの根拠を明確に示すように伝えた。

○グループの話し合いが深まるように、進行役を決めさせた。

○自分の考えと異なる考えとを比較しながら聞かせた。〔D⑤〕

○友達が示している根拠が正しいか考えさせた。〔D⑤〕

○納得した考えを、赤色でワークシートへ記入させた。

○まとめる際のキーワードになる言葉に印を入れさせた。

○学級全体の話し合いが深まるように、「緊急性」「実現可能性」等の視点に沿った発言を取り上げ、板書するようにした。

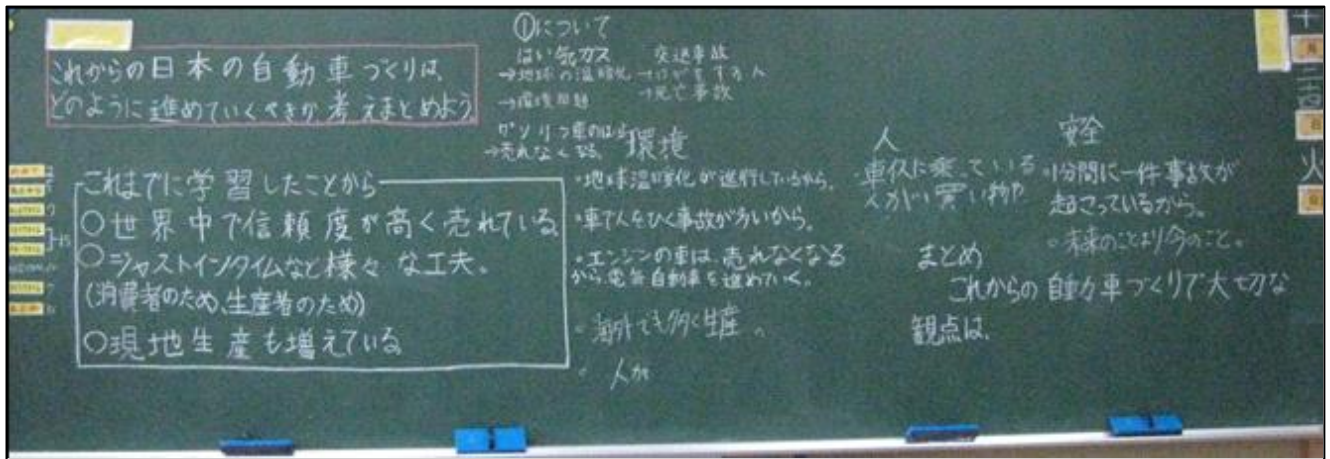


○考えの変容を実感することができるように、レーダーチャート（思考ツール）の観点ごとに自分の考えを記入させた。

○学級全体で話し合った時にチェックしたキーワードを中心として考えをまとめさせた。

○本時の学習で気付いたことや自分の考えの変容を踏まえ、これからの日本の自動車づくりに必要な視点を書かせた。

○考えが変容した児童を意図的に指名して発表させた後、個人でもワークシートの記述を振り返らせることで、本時の学習における深まりを実感させた。



本時の最終的な板書

本時の振り返り（○成果、●課題）

（１）柱１「本時に取り入れた手立て及び意識したことは、児童の『主体的・対話的で深い学び』につながっていたか。」

○めあてが授業の最初から板書で提示してありました。めあての必然性という視点から疑問でしたが、単元の最初に学習計画として示してあったことで、児童は見通しをもち、本時にすべきことを理解していたのではないかと思います。

●グループの話し合いで個人の考えを更に深めさせるためには、グループで１番を決定させるなどしても良かったと考えます。そのことで全体の話し合いの必然性が高まると考えます。また全体の話し合いの必然性を高めるために、グループの話し合いでは同じ考えの児童同士で話し合わせても良かったと思います。

●対話的な学びにつなげるためには、考えを可視化するために、ネームプレートを黒板に貼らせる方法も考えられます。

●ワークシートに調べた事実を長く記述している児童がいました。話し合いの中で、説明を聞いて理解するのが難しい様子が見られたので、ワークシートに調べた事実を記述する欄と考えたことを記述する欄を区別し、簡単に記述させてもよかったです。

●全体の話し合いの中で、「すぐに解決すべき問題かどうか」という視点が出た際に、すぐに板書をしたところは良かったです。ただ、話し合いを更に深めるためには、その視点で考えさせること、また「立場」を意識した発言があったので同様に板書して考えさせた方が良かったと考えます。

●話し合いで児童の意見が噛み合わない「深い学び」にはつながらないので、「安全」「環境」「人」を重視する自動車が具体的にどのような装備を備えた自動車なのか、明確にしておくことが必要だと感じました。

（２）柱２「本時に取り入れた手立て及び意識していたことは、児童の資質・能力の育成につながっていたか。」

●グループ活動では、他者の意見を基に個人の考えを広げたり深めたりすることを狙っていましたが、「お年寄り」「体の不自由な人」など立場に目を向けて話し合わせても良かったと考えます。

- 単元の課題解決の過程において、調べることや予想を「ピンク」付箋に、「調べた事実を「ノート」に、調べた事実を基に考えたことを「緑」付箋に記述させてきました。そのことで、事実と考えを明確に分けて考え、発言したり書いたりしている姿を見ることができました。
- 発表する児童が「資料の○ページ」と言った時に、ほぼ全員が資料をさっと開いて、該当のページから資料を探していました。また、初発の資料を見て、すぐに目的に応じて調べることができている児童が多かったです。日常の指導の積み重ねを感じました。
- 反対意見を言いながら、双方向的に考えを深めさせるためには、「型」を与えて思考方法を学ばせることも必要だと感じました。

(3) 柱3 「授業の質的改善に至るまでの方法（手順）は、適切だったか（手引きの見直し）。」

- 課題追究の過程に焦点を当てました。様々な立場ごとのメリット・デメリットを考えるために、「グループの話し合い」を取り入れました。本時の授業で取り入れた「話し合いの視点を明確にする」手立てが、「深い学び」の視点から効果的と判断されたため、D⑤の手立てを追加することができました。